

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

萩ジオパーク構想による「萩らしさ」が”見える”・”伝わる”まちづくり計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

萩市

### 3 地域再生計画の区域

萩市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本市は、平成17年に1市2町4村が合併し誕生した。本市域の人口は、昭和30年の97,744人をピークに減少が続き、平成27年には49,560人となった。特に、人口減少が先行する中山間地域では、若い世代の流出による担い手不足が深刻化し、地域の主要産業である農林漁業経営の継続はもとより、集落の維持さえも困難となっている。

一方、本市の中山間地域には貴重な地域資源が数多く存在するが、観光資源として活用されているものは一部に過ぎない。

このため、未利用の地域資源を活用し、中山間地域における交流人口の拡大及び地域経済の活性化を図ることが急務となっている。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

本市は山口県北部に位置し、南東部の中国山地から日本海にかけて起伏量概ね200m以下の山地や丘陵地が広がり、平野は河口部など一部を除き乏しい。中心市街地はその一つである阿武川の三角州に建設された萩藩の城下町であり、幕末まで藩の政治・経済・文化の拠点であった。今なお当時の様子を色濃く残していることから、歴史のまちとして、また、観光都市として広く知られている。

本市では、「萩にあるもの、萩にしかないもの」を活用した「萩の創生」に取り組んでおり、「萩市総合戦略」において、「歴史・文化・自然を活かした観光のまちづくり」、「地域資源を活かした「しごと」の創出」、「萩の魅力を活かした移住・定着の促進」、「希望をかなえる結婚・出産・子育て環境の充実」、「誇りと志を抱き未来を拓くひとづくり」、「生きがいをもち健康で自立した暮らしの実現」及び

「地域特性を活かした安全で快適なまちづくり」の7つの基本目標を設定し、まちづくりに取り組んでいる。こうした取組の一環として、平成27年から先行型交付金（タイプ1）及び地方創生加速化交付金を活用し、「萩ジオパーク構想」の推進に取り組んでいる。

「ジオパーク」とは、それぞれの地域にある自然や文化を保護・保全しつつ（環境保全）、その学術的価値を理解し（教育活動）、ジオツーリズム等に活用することで地域の振興につなげ（地域活性化）、地域の持続可能な発展を目指す取組である。本市は近隣の阿武町及び山口市とも協力し、平成30年の日本ジオパーク認定申請に向けて、全市を挙げて様々な取組を進めているところである。

萩の大地の大部分は、約1億年前からの様々な火山の活動で造られており、萩の美しい景観も、海の幸・山の幸も、歴史や文化も、こうした大地の成り立ちと密接に結びついている。「萩ジオパーク構想」では、大地に寄り添い、大地に適した形でまちを築いてきた先人の知恵を学び、萩らしくあるためにはどうふるまえばよいかを考え、萩らしい形にまちを発展させて未来の世代に引き継ぐことにより、地域の持続可能な発展を実現する。

これまで本市は、大地と人がつながる場を提供する人材として「ジオガイド」を養成するとともに、萩の「大地のめぐみ」である資源を活用した産業振興に取り組んできたが、大地と人がつながる仕組みづくりや、ジオパーク活動に取り組む人と人、地域と地域がつながる仕組みづくりが十分でなく、効果が限定的なものとなっていた。このため、「大地と人」、「人と人」、「地域と地域」がつながる環境をつくることで、ジオパーク活動を経済活動に結びつけ、交流人口の拡大と、萩の自然環境に適した経済発展を図り、新たな雇用を創出することで、将来的な定住促進を目指していく。

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H29年度 増加分 1年目	H30年度 増加分 2年目	H31年度 増加分 3年目	H32年度 増加分 4年目	H33年度 増加分 5年目	KPI 増加 分の累計
①ジオパーク ビジターセンターの入館者数	0	100,000	50,000	50,000	—	—	200,000
②ジオツーリズムをコーディネートする「案内人」の人数	0	3	6	6	—	—	15
③事業化したジオツアーの実施回数	0	1	3	3	—	—	7

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

萩の歴史・文化・自然にある「萩らしさ」は、その源流である「大地の成り立ち」と密接に結びついている。萩ジオパーク構想の市民参加型の地域活動により、中山間地域に多く存在する未利用の地域資源について、大地とのつながりを見える化し、価値を高め、後世に引き継ぐとともに、ジオツーリズム等で活用し、観光交流による「萩らしさ」が伝わるまちづくりを推進することにより、持続可能な地域づくりを実現する。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

#### ① 事業主体

萩市

#### ② 事業の名称：

萩ジオパーク構想による「萩らしさ」が”見える”・”伝わる”まちづくり事業 ～ふるさと萩が萩らしくあり続けるために～

#### ③ 事業の内容

ジオパークとは、大地の記憶から土地に合った生き方を学び、それを教えてくれる「大地の遺産」を守りながら、活用することで、地域の持続的な発展を実現する取組であり、「萩ジオパーク構想」では、ジオパーク活動の目的及び目標を次のように設定している。

##### 【目的】

萩らしい未来をつくる～「萩らしさ」が”見える”・”伝わる”まちづくり～

##### 【目標】

- ①萩の大地の成り立ちや大地のめぐみに適したまちを築いてきた先人の知恵を学び、萩らしくあるためには、どうふるまえばよいかを考え、萩らしい形にまちを発展させて未来の世代に引き継いでいく。
- ②「萩らしさとは何か」を市民が認識し、守り、磨き、新たに創りだしていくために、市民の誰もが自分の住んでいる土地の成り立ちと特徴を語れるようになる。

交付金対象事業では、こうした活動を市を挙げた取組とするため、【普及啓発事業】、【ウェブサイト構築事業】及び【イベント開催事業】により「萩ジオ

パーク構想推進協議会」を中心に、「萩ジオパーク構想」のより一層の周知を図るとともに、ジオパーク活動の機運を醸成することにより、市民参加型の地域活動として発展させていく。

さらに、ジオパーク活動における地域振興の中核となるのが「ジオツーリズム」であることから、【ジオガイド・案内人養成事業】により、ジオツアーの事業化に不可欠な”大地と人をつなぐ人材”として、各地域においてジオツアーの見どころをガイドするジオガイド及び顧客満足度が高くなるようにジオツアーを組み立て、ジオツーリズムを総合的にコーディネートする「案内人」の育成を図るとともに、【サイン整備事業】及び【サテライト・拠点施設機能強化事業】により、ジオツアーに必要な環境を整備する。また、【サテライト・拠点施設機能強化事業】では、将来的な六次産業化、ブランド化に向けて、大地と人をつなぐことで地域製品の付加価値を高めるため、市民のジオパーク活動拠点の機能強化を図る。

【モニタリング事業】では、本事業の事業推進主体である「萩ジオパーク構想推進協議会」の将来の自立化に向けて、ジオツーリズムに関する観光動態分析を行い、事業効果の検証を行う。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

観光客の多様なニーズに対応可能なジオツアーを複数造成し、観光事業者とともに事業化することにより中山間地域を中心に新たな観光誘客を図る。

また、交流人口の拡大による地域経済の活性化を通じた税収増加により市の一般財源の負担を軽減する。

##### 【官民協働】

山口県をはじめ阿武町、山口市等の官の分野並びに萩商工会議所ほかの経済団体、萩市観光協会ほかの観光団体、萩ユネスコ協会ほかの文化団体萩まちじゅう博物館ほかのNPO、萩ケーブルネットワークほかの事業所JA、JF等多くの民の団体及び個人が「萩ジオパーク構想推進協議会」の構成員となっており、連携のもと事業を展開することが可能となっている。

##### 【政策間連携】

地方版総合戦略に掲げる基本目標である「歴史・文化・自然を活かした観光のまちづくり」を、ジオパーク活動の推進により市民と一体となって

推進することが可能となっている。

### 【地域間連携】

萩ジオパーク構想エリアに含まれる地方公共団体の連携による事業効果の向上及び「日本ジオパークネットワーク」に加盟する地方公共団体（60団体203市町村）間のノウハウの共有による事業展開の高度化が可能となっている。

## ⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H29年度 増加分 1年目	H30年度 増加分 2年目	H31年度 増加分 3年目	H32年度 増加分 4年目	H33年度 増加分 5年目	KPI 増加 分の累計
① ジオパークビジターセンターの入館者数	0	100,000	50,000	50,000	—	—	200,000
② ジオツーリズムをコーディネートする「案内人」の人数	0	3	6	6	—	—	15
③ 事業化したジオツアーの実施回数	0	1	3	3	—	—	7

## ⑥ 評価の方法、時期及び体制

### 【検証方法】

平成30年のジオパーク関連施設における交流人口をカウントした上で産官学金労言や住民代表等により構成される「萩市総合戦略推進委員会」等において、外部の知見を活用した成果検証と、今後の施策展開についての意見聴取を行うとともに、PDCAサイクルによる効果検証を実施する。

### 【外部組織の参画者】

【産】萩商工会議所会頭、萩市観光協会会長、あぶらんど萩農業協同組合代表理事組合長、山口県漁業協同組合はぎ統括支店長、阿武萩森林組合代表理事組合長、萩ブランド協同組合理事、萩温泉旅館協同組合理事長、萩・阿西商工会会長

【官】山口県萩県民局局长、萩公共職業安定所所長

【学】至誠館大学学長

【金】萩山口信用金庫萩支店支店長、山口銀行萩支店支店長

【労】 連合山口中部地域協議会萩地区会議議長

【言】 元メディア関係者

#### 【検証結果の公表の方法】

検証後、萩市HP等で公表

#### ⑦ 交付対象事業に要する経費

・ 法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

総事業費 34,980千円

#### ⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日（3 ヶ年度）

#### ⑨ その他必要な事項

特になし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 滞在型・体験交流型観光事業

事業概要：

地域の特性や地域特有の資源を活かし、地域の人々自らが主体となつて都市住民や修学旅行生等と交流する体験型観光、自然や歴史を組み合わせた萩ならではの「ふるさとツーリズム（グリーン・ツーリズム）」を推進する。

実施主体：

萩市

事業期間：

平成 29 年度～平成 31 年度

##### (2) 観光情報発信事業

事業概要：

ホームページの充実、萩ロケ支援隊（フィルム・コミッション）などの活用により萩のPR・情報発信を行うことで知名度を向上させ、観光

客の増加につなげる。

実施主体：

萩市

事業期間：

平成 29 年度～平成 31 年度

### (3) 観光アクセスの向上・受入体制充実事業

事業概要：

旧明倫小学校前の萩・明倫センターを起点とした市内を循環する仕組みづくり（バス路線の構築等）を検討し、市内に点在する観光地を移動するための利便性の向上を図る。その他、リピーターを獲得するためには萩への再訪を促す努力が必要なことから、萩のブランド、イメージを損なうことがないように、観光客へのガイドや観光地の美化活動を行い、受入体制を充実させる。

実施主体：

萩市

事業期間：

平成 29 年度～平成 31 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

平成 30 年のジオパーク関連施設における交流人口をカウントした上で、産官学金労言や住民代表等により構成される「萩市総合戦略推進委員会」等において、外部の知見を活用した成果検証と、今後の施策展開についての意見聴取を行うとともに、PDCAサイクルによる効果検証を実施する。

#### 【外部組織の参画者】

【産】萩商工会議所会頭、萩市観光協会会長、あぶらんど萩農業協同組合代表理事組合長、山口県漁業協同組合はぎ統括支店長、阿武萩森林組合代表理事組合長、萩ブランド協同組合理事、萩温泉旅館協同組合理事長、萩・阿西商工会会長

【官】 山口県萩県民局局長、萩公共職業安定所所長

【学】 至誠館大学学長

【金】 萩山口信用金庫萩支店支店長、山口銀行萩支店支店長

【労】 連合山口中部地域協議会萩地区会議議長

【言】 元メディア関係者

## 7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H29年度 増加分 1年目	H30年度 増加分 2年目	H31年度 増加分 3年目	H32年度 増加分 4年目	H33年度 増加分 5年目	KPI 増加 分の累計
① ジオパークビジターセンターの入館者数	0	100,000	50,000	50,000	—	—	200,000
② ジオツーリズムをコーディネートする「案内人」の人数	0	3	6	6	—	—	15
③ 事業化したジオツアーの実施回数	0	1	3	3	—	—	7

## 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

検証後、萩市HP等で公表